

死亡牛の速やかな処理について

これからの暑い時期は、**死亡牛の腐敗**が早く進みます。保冷施設への死体搬入が遅れると、牛舎内の衛生環境が悪化するだけでなく、BSE検査に支障をきたします。特に腐敗が進行すると、延髄採材中につり上げた死体が落下する恐れがあり、採材者及び採材補助者の身を危険にさらしかねませんので、速やかに輸送業者に連絡してください。

96か月齢以上の牛が死亡したら

- 1 家畜保健衛生所への届出（電話または「死亡牛届出書」の提出）
「BSE対策特別措置法」に基づき、所有者または検案した獣医師が届出を行います。
- 2 (独)家畜改良センターへの異動報告
(TEL: 0248-48-0596)
牛トレーサビリティ制度による個体識別番号（耳標の10桁番号）の死亡報告を行ってください。
- 3 輸送業者・化製業者へ死体処理の依頼
(有)青和TEL: 0176-56-4881)
死体はBSE検査で陰性確認後、化成処理されます。輸送業者には、死亡牛整理票を提出してください。

◎家畜の死体は産業廃棄物であり、適正な処理は所有者の義務です

◎96か月齢未満の牛が死亡した場合も、法令を守って適正な処理が必要です

自己所有地であっても死亡した家畜を埋めることや放置することは
法律違反※（不法投棄）です

※「化製場等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」参照

△死亡牛を搬出する際にご確認ください

その牛はBSE検査対象ですか？

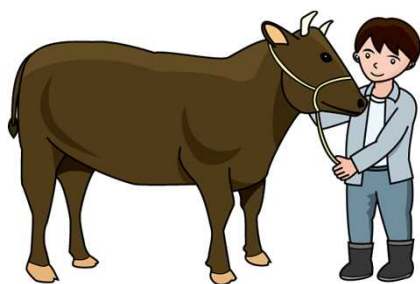
平成31年4月1日からBSE検査を受ける牛の月齢が変わりました。これに伴い、家保への死亡牛の届出が必要な月齢も変更されています。

通常の死亡牛は96か月齢以上がBSE検査対象になりますが…

以下に該当する牛は

48か月齢以上96か月未満でも検査が必要です

- 1 生前に歩行困難、起立不能や神経症状を呈する疾病と診断されたもの（関節炎や蹄病、骨折などが歩行起立困難の理由であるものを除く）
（例）低カルシウム血症、マグネシウム欠乏症、乳熱、ダウナー症候群、大脳皮質壊死症、その他末梢神経麻痺など
- 2 家伝染病や届出伝染病にかかっている死亡牛
（例）**牛伝染性リンパ腫**、牛ウイルス性下痢、アカバネ病、気腫疽破傷風などの届出伝染病



近年、増加傾向にある「**牛伝染性リンパ腫**」と診断された牛は、48か月齢以上がBSE検査対象になりますので、ご注意ください。

飼養している家畜に異状が見られた場合には、直ちに獣医師、または**家畜保健衛生所**にご連絡ください。

★むつ家畜保健衛生所

〒035-0072

むつ市金谷二丁目18-25

夜間及び休日の連絡先：090-5841-6810

電話：0175-22-1254

FAX：0175-22-1259